

[新春特集] 近松鴻二さんに聞く

今の暦と江戸時代の暦とお正月と…

太陽と月をもとにさまざまな暦が誕生

あけましておめでとうございます。お正月を迎えると新しいカレンダーに取替え、今年の暦はどうなっているかなと眺めながら新しい1年に思いをはせる、みなさんそんなことがおありではないでしょうか。その暦について江戸東京博物館・近松鴻二さん(学芸課資料・図書係長)に今の暦と江戸時代の暦の違いや歴史などのお話を伺いました。

出席者 近松鴻二(江戸博学芸課)
聞き手 井上敏子(事業部会)
後藤幸子(総務部会)
松原 良(広報部会)

太陰暦と太陽暦

——新年なので暦のお話をお伺いします。

近松 今の暦は、太陽暦で、太陽の運行だけを基につくられています。旧暦は地球からみた太陽と月の動きを合わせてつくられたもので複雑なのです。太陽の動きは、厳密に言えば地球の公転に、月の動きは月の公転に起因します。この関係はある意味では無関係なのです。

——それぞれが、勝手に動いているということですね。

近松 相対的な因果関係はないのですが、無理やりくっつけたのが旧暦です。太陽暦は地球が太陽の周りを一周する時間(1太陽年)365.2422日が基準になります。原理的にはある時点から1日、2日、・・・と365日まで続けていくと暦ができあがります。それでは不便なので、ひと月という単位を作ったのです。ひと月というのは、地球から見た月の公転周期29.5306日(1朔望日)の近似値です。新月から新月まで、あるいは満月から満月までが約29日半です。端数を切り上げて30日、それで1太陽年を割ると12という数字がでてきます。

——365を30で割るのですね。

近松 5日余りがでますよね。現行暦につながる太陽暦ができた当時は今より簡単でした。ひと月を30日(小の月)とし、5日余った分を、最初の月からひと月おきに1日ずつ配分して31日(大の月)としたのです。1年の端数0.2422日は、4年で約1日とな



— 目 次 —

◆友の会セミナー

第21回「樋口一葉・その世界」……4

第22回「魔法にかかった時代
の放送」……5

第23回「昭和天皇の料理人」……6

第24回「江戸東京の狛犬」……7

◆見学会「バスツアーで

北総探訪」……8

★特別内覧会

「大(Oh!)水木しげる」展……9

◆えど友プラザ

稲垣武志「東京の酒礼賛」……10

☆江戸博クリップ 田原昇……9

☆源内さんの江戸博さんぽ……11

☆えど友サークルたより……10

●新企画「江戸博界限①」

回向院と江戸蕎麦ほそ川……12

☆会議・会合日誌……11

●事業部会だより……13

☆会員優待のお知らせ……14

■会報〈えど友〉は、会員の皆様と友の会を結ぶ情報誌です。ご意見・ご希望・ご投稿など、ぜひお気軽にお寄せください。

新年祝辞 江戸東京博物館 館長 竹内 誠
 友の会会員の皆さま、あけましておめでとうございます。
 平素より皆さまのご支援に厚く御礼申し上げます。
 友の会におかれましては、早いもので、今年創立5年目を迎えられることとなりますが、この間、会主催の講座やセミナー、会報『えど友』の発行など、皆さま方の積極的な活動に心から敬意を表します。
 昨年3月に、当館の開館10周年のお祝いとして皆さま方から『大宅壮一文庫創刊号コレクションシリーズ』をいただきましたことは、今でも嬉しい思い出です。研究資料の検索などに役立てることができ、本当に感謝しております。
 博物館をとりまく状況はここ数年厳しくなっていますが、より親しまれ、愛される博物館をめざして、職員一同努力を重ねて参る所存です。
 本年が、友の会会員の皆さまにとって良い年でありますとともに、友の会がますます発展する年となりますよう祈念いたします。

新年祝辞 江戸東京博物館友の会会長 山本市郎
 平成17年明けましておめでとうございます。
 江戸東京博物館友の会も4年の歳月がたち、会員各位・博物館の皆さまのご支援、ご協力を得てますます確固たる歩みを続けることが期待されます。
 昨年はセミナー・見学会・講座・バスツアー等活発に行われ、多くの方がたにお楽しみいただけたことと思っております。
 本年もまたいろいろな企画が準備されており、昨年以上の内容を享受していただけるものと考えております。会員各位におかれましても良いアイデアを積極的に発表、その実現に参画して頂けるようになってまいり本当にうれしい限りで、今年は大いに希望の持てる年です。
 また、本年は一部役員の改選期であり、さらに清新な顔ぶれで友の会の発展に寄与できると期待しております
 最後に会員皆さま方のご健康をお祈りし、併せて一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

るので、4年に1度1年最後の月を1日多くしたのです。それが閏(うるう)年です。

—今の暦はどうして2月で調節しているのですか。

近松 最初につくられた暦は、年の初めを春分の日を含む月にしたからです。つまり今の3月から2月までが1年です。2月に閏日が設けられているのは最後の月だったからです。このようにして作られたのがユリウス暦です。紀元前46年ユリウス・カエサル(シーザー)により採用されました。

ユリウス暦とグレゴリオ暦

近松 ローマ時代にアウグストゥス(前63~後14ユリウスの養子)という皇帝が、自分の誕生月が小の月では面目ないと言って、今の8月を大の月にしてしまいました。8月の英語名「オウガスト」のいわれになっています。このような例がいくつかあります。うちに年の初めを春分から冬至に近い月に変え、今の1月にしたのです。今の暦はもともと単純なものだったのです。権力者の恣意(しい)的な施策から、少し複雑になっていますが、旧暦に比べれば単純です。

—たどっていくと、色々なことがあったのですね。

近松 今の暦はグレゴリオ暦で、16世紀末ローマ法皇グレゴリオ13世のときに、キリスト教圏に採用されたものです。ユリウス暦のように4年に1度閏年を設けると、1年は365.25日となります。実際は365.2422日なので1年に0.0078日ぐらひ多くなります。小さな数字ですが累積すると130年ほどで1日多くなってしまいます。グレゴリオ暦は、400年に3回閏年をとばして調節しているのです。ご存知のように西暦の4の倍数の年が閏年になっています。4の倍数の内400の倍数でない西暦の年を閏年をしないことにしました。それで400年の内、3回閏年を抜くのです。それがグレゴリオ暦です。ユリウス暦では、シーザーの時代からグレゴリオ13世までに十数日ずれてしまいました。それを調整し、以後ずれが小さくなるようにしたのが今の暦です。

—西暦2000年は閏年でしたが、2100年には閏年をしないのですね。

近松 そうです。それでも3000年に1日くらいずれます。

—ぴったりではないですからね。

近松 結局ユリウス暦を変えたのはそれが目的だったのです。十数日ずれたので、冬至や春分の日などが、も

もとの日付にして、ずれないようにしたのです。キリスト教圏でも、地域や国で事情が違うので、グレゴリオ暦への転換は一斉にはできませんでした。日本では明治5年から6年にかけて旧暦から太陽暦に改められました。

—4

年に1度、閏年があるのは、それ以来ですね。



近松 そうです。明治政府が明治6年から採用した太陽暦は、実はユリウス暦だったのです。ユリウス暦では例外なく閏年は4年に1度です。1900年(明治33)を迎えるにあたって、欧米諸国では閏年にしないのに、日本では閏年をするようになっていたことに気付き変えたのです。1898年(明治31)に400年に3回、閏年を行わないというのを決めて現行のグレゴリオ暦に移ったのです。

複雑な旧暦

—旧暦というのはどういうのでしょうか?

近松 太陰暦は月の動きだけの暦です。太陰というのは月のことです。月

は太陽に対して陰です。中国では物事を全て陰と陽で分けています。陰陽道はそれからきています。旧暦は月と太陽両方の運行を加味した太陰太陽暦です。純粋な太陰暦もあります。月の満ち欠けだけでつくられた暦です。1太陽年に近い12朔望月を1年とする暦です。29.5306日×12ですから354日と9時間ほどになります。今もイスラム教の最重要儀式ラマダンは純粋な太陰暦（イスラム暦）で行われています。太陽暦と1年で約11日ずつずれますから、18年たつと冬だったラマダンが夏になったりします。旧暦は太陽の運行と月の満ち欠けを組み合わせた暦なので、ずれがひと月蓄積する数年に1回（詳しくは19年に7回）1年を13ヶ月（384日）にして、季節のずれを調節していました。

旧暦は日付と月齢（月の満ち欠け）が一致していたので、照明代が高価であった時代、月明かりが期待できるか否かがすぐわかり、海岸地方では潮の大きさも日付に対応していたので、自然に逆らわない生活をしてきた人々にとっては、便利な暦だったのです。

——中国と日本ではお正月が違いますね。

近松 中国のお正月は旧暦で行っています。

日本では太陰太陽暦の旧暦を現行暦に変えたとき、旧暦の年中行事を新暦のいつにするかということ民間に任せました。正月はおおむね新暦に移しました。東京ではその他の年中行事をそのまま新暦に移したのです。たとえば旧暦の7月に行っていたお盆を新暦の7月に移しました。地方によっては、旧暦のままとか、ひと月遅れで行っています。

江戸時代の正月

——ひと月遅れということは、旧暦に近いということで、本当の旧暦とは違いますね。

近松 そうです。江戸時代の旧暦の正月元日が、グレゴリオ暦の何月何日になるかを調べたことがあります。一番

早い年は1月21日で今の元日と20日のずれがあります。このずれは年によって違い、一番ずれているのが2月22日で、ずれが52日もありました。平均すると2月6日で37日のずれになります。

——毎年変わってきてしまうのでは、暦の作りためはできませんね。

近松 そうです。天体観測の結果と複雑な計算をして作ったので、できません。コンピュータの無い時代ですので、算盤で

天体観測の結果と合わせて計算して暦を作っていたのです。暦は前年の10月までに作って11月の朔日に中務省に送り、天皇に奉聞し、公式に発表された後、印刷され暦業者に渡るとい

う仕組みでした。

——今も旧暦のカレンダーも刊行されていますが？

近松 月の動きが少し早くなったり遅くなったりするのを江戸で観測して作られたのが天保15年（1844）に採用された天保暦です。天保暦は究極の太陰太陽暦といえます。今の旧暦はその天保暦を踏襲して作られていますが、コンピュータがあるので作りためは可能です。

——旧暦の元日はグレゴリオ暦に直すと、年によって、ひと月も違うのですね。

近松 昔は立春がくると正月だと言われていましたが、年によっては立春が前の年の暮れにきたりしています。——お正月というイメージが大部違いますよね。

近松 季節感や太陽暦の方がはっきりしています。お正月の行事などは暦通りにやっただけでしょうが、気持ちとしては立春をもって年が始まったということでしょうね。立春は1太陽年の1年を24等分した24節気の2月4日頃になります。24等分すると間隔が2週間くらいですね。

——よく天気予報で引用される24節気は、旧暦起源のように思われ勝ちですが、太陽暦と同根なのですね。その一つが立春なのですね。

近松 24節季の標記は季節感が早く、実感とずれているという印象がありますが、物事のピークが真ん中か終わりかという感覚の違いです。我々はピークは真ん中だと感じますが、昔の人は物事の終わりとしたので、24節季中一番寒いのが大寒で、これが冬の終わりで、次が立春となるのです。

改暦の裏事情

——暦が変わったのは明治ですね。

近松 その変えた理由が、表向きは欧米先進国と同じ暦を使って近代化を促進するということでしたが、裏事情があつて、旧暦ですと数年に1回、1年が13ヶ月になり、当時の役人は月給制だったので13回給料がもらえたのです。そのころの明治政府は財政困難でした。暦を変えるだけでひと月分給料を払わなくて済むのです。そのあとも3年に1度ひと月分助かるのです。——それは明治のいつごろからですか？

近松 明治5年（1872）の12月3日を明治6年の1月1日に変えたのです。目の前の明治6年の閏年をさけるために急遽（きょ）明治5年11月9日に詔をだして改暦を断行してしまったのです。11月朔日に旧暦の明治6年の暦が発表され、印刷をすませた暦業者は大変な損害を被りました。今ならコンピュータの切り替えなどで大問題でしょうが、わずか一ヶ月たらずの内に切り替えてしまったのです。世界の国々に合わせるという大義の裏に、財政難という事情があつたのです。

——旧暦は今のおよそ1ヶ月遅れぐらいに思っていました。そんな単純なものではなく、暦にも深い仕組みや歴史があることが分かり、江戸時代のお正月に対するイメージも膨らませることができました。どうもありがとうございました。

【構成】 広報部会・松原良、岡橋園子

お札になった樋口一葉・その世界

講師 井上 謙さん(元日本大学教授、近畿大学教授)

日本近代文学の礎を築いた樋口一葉の没後 108 年を迎えた今年(2004年)、彼女は日本国新紙幣の「顔」となって世界にデビューを果たしました。

しかし、一葉の生きた明治前半期という時代は、彼女にとって決して居心地のよいものではありませんでした。

当時彼女は日記の中で「婦女(おんな)のふむべき道ふまばやとねがへど、そも成難(なりがた)く、さはとて、おの子のおこなふ道まして伺ひしるべきにしもあらずかし」と記しています。時代が求める良妻賢母という女性のあるべき姿で歩むべき道をゆきたいと言及しつつ、それは自身にとって難儀なことであるとし、「女性ながら」男性のような一生を送りました。

ただでさえ女性が家の外に職を求めることに対しまゆをしめられる時代、女の物書きに対する世間からのプレッシャーや、彼女自身に内面化されたジェンダーとの葛藤、実生活の苦しみ…。一葉はそういった困難を乗り越えながら作品を生み出してゆく強い意思、忍耐力、努力を兼ね備えた作家であり人間だったのです。

一葉の生い立ち

作家の性格は育った環境による影響が非常に大きいものです。一葉の場合も然りで、両親と幼少期の環境による影響がうかがえます。

両親は共に山梨の農民の出でしたが、二人は身分の違いから結婚を反対され、駆け落ちをして東京へと向かいます。一葉の血の中には生まれながらにして、こうした行動力に通じる勇気や激しさ、そして強さが備わっていたのでしょう。

やがて両親は共働きの苦労の末、幕臣の株を買い下級武士の身分を手に入れますが、幕府は瓦解。明治5年、一葉は千代田区の官舎で生まれますが、父は曲がりなりにも武士であり、武士の娘として育てられた誇りが幼い彼女のなかにもあったはずで

「女に教育は不要」とリアリストであった妻の反対を受けながらも、父は一葉の才能を認め彼女に和歌や読書の教養をつけさせました。父が役人となった樋口家の生活は安定し、少女期をいわゆるお嬢さんとして育てられた一葉にはそれに準ずるプライドがありました。



しかし彼女が 16 歳の頃から樋口家の生活は暗転してゆきます。まず一葉の兄である長男が亡くなり、放蕩(とう)息子の次男が分家したことで一葉は戸主となります。翌年父が事業に失敗して亡くなると、一葉は婚約を破棄されたりして家はばらばらになり生活も困窮を極めます。そしてプライドまで傷つけられた一葉は、苦しみや悲しみを紛らわせ、こうしたやりきれない現実を消化する手段として小説を書こうと意を決します。

半井桃水への師事

一葉は妹の紹介で知り合った半井桃水の方添えて「武蔵野」に短編小説

を寄稿するようになり、王朝文学をベースにした数々の短編小説の秀作を発表してゆきます。

しかし師である桃水との噂や、身の雑事に悩む日々が続くようになり下谷竜泉寺へと移転します。そこで王朝文学の世界とまったく趣を異にした庶民の生活というものに接し、新しい作品を書こうと奮起します。この後「大つごもり」「たけくらべ」といった名作が誕生してゆきます。

「大つごもり」と「たけくらべ」

「大つごもり」は大晦日、一年の総決算という追いつめられた時間のなかで展開する2円という「お金」の悲劇ですが、お金をまっこうから扱った近代の文学はこの作品が初めてです。経済の問題をテーマに据えるというのはいかにも今日的で

一方「たけくらべ」は郭(くるわ)世界の少女(大黒屋の美登利)と信仰の道へ進んでゆく少年(龍華寺の信如)の恋心や葛藤を豊かに表現した青春文学の傑作です。また、遊郭という「欲」と、寺という「信仰」の世界、「肉」と「心」という人間のもつ二面性もテーマになっていて、これは内面を掘りさげて描いてゆくという近代文学の典型的な姿でもあります。

ますます注目される一葉

一葉没後まもなく 110 年を迎えようとしている今日においてもなお彼女は我々を魅了しつづけています。戯曲のモデルとなったり、恒例となった追悼集会では毎回多くの人々が集まり、向かい風の時代を強く生きた天(よう)折の文学者をしのんでいます。

文化庁が世界に推薦する日本近現代文学者のひとりとしても挙げられた樋口一葉は、お札になったことをきっかけに、国内外を問わず今後ますます注目の存在となってゆくことでしょう。

【記録】文・写真:広報部会・斉藤美香子

第22回江戸東京博物館友の会セミナー (2004/10/16)

魔法にかかった時代の放送

～主に「兵に告ぐ」から「玉音放送」まで

講師：松本太郎さん (元 NHK 放送博物館館長)



20世紀はエレクトロニクスの時代

「魔法にかかった時代」というのは、司馬遼太郎が使った言葉で、昭和11年から20年まで、日本は魔法の森に完全に入ってしまっただけではないか、と表現しています。

20世紀は戦争、通信、あるいは放送の時代などといわれますが、エレクトロニクスの時代が本格的にやってきたといえるでしょう。

第一次世界大戦後、大正9年(1920)にアメリカのウェスティングハウス社がピッツバーグでNDKAという放送局を設立し、初めて放送が開始されました。

日本では大正14年(1924)に始まりました。昭和3年(1928)の昭和天皇即位の礼の放送に際し、初めて全国中継が可能になりました。このときのイベントがアメリカの放送局の真似ですが今も続いている「ラジオ体操」です。

2・26事件で放送の役割認知

さて、昭和11年2月26日(1936)にわが国の歴史上、最大のクーデターが起きました。

これが2・26事件で、皇道派と統制派という陸軍内部の権力闘争であったわけです。午前7時20分には重大事件勃発ということで、事件の放送禁止令が出され、午後8時に陸軍省が事件の概要を発表しました。

岡田首相、高橋大蔵大臣などの要人、警視庁、朝日ならびに読売新聞社など

が襲われましたが、反乱軍の一番致命的なミスは放送局を襲わなかったことです。

28日まで膠(こう)着状態が続き、反乱軍はラジオを聞いているらしいということで、あの「兵に告ぐ」が放送され、どんどん原隊に復帰ということになりました。この時、非常事態に際して放送の果たす機能と役割が初めて認知されたといえます。

この後、日中戦争に突入していくのですが、唯一魔法にかからなかったのが同年のベルリンオリンピックの「前畑ガンバレ」の放送だったと思います。

太平洋戦争開戦の昭和16年(1941)12月8日の午前4時、「西の風、晴れ。西の風、晴れ」という不思議な天気予報が放送されました。外務省の要請によるもので、これを聞いた在外公館に「機密文書を焼却せよ」ということだったのです。

ただ、「西の風、晴れ」というのは、実は日英関係が悪化した場合の暗号で、日米関係が悪化した場合には「東の風、雨」ということになっていたのですが、どうしてこうなったのか真相は不明のままです。

玉音放送は起立して

昭和20年(1945)8月14日の正午に御前会議が開かれ、ポツダム宣言の受託が決定されました。木戸日記などを読むと、玉音放送に関しては情報局の総裁や内大臣がからんでいたようで

す。神である天皇がマイクの前に立つということは破天荒な計画ではあったのです。

15日までに録音班を宮内庁に出頭させよという伝達があり、絶対に失敗は許されないため2セットに録音したそうです。当時は電力事情が大変悪かったのですが、何とか送電して国民に聞いてもらったということです。

「ただ今より、重大なる放送があります。全国視聴者のみな様、ご起立願います。天皇陛下におかせられましては、全国民に対してかしこくもおん自ら大詔(おおみことり)を宣らせ給うことになりました。これよりつつしみて玉音をお送り申します」という和田信賢アナウンサーの紹介に引続いて、玉音放送が流れました。

玉音の後、「かしこくも天皇陛下におかせられましては、万世のために太平をひらかんとおぼしめされ、きのう政府をして米英支ソ4国に対してポツダム宣言を受託する旨、通告せしめられました…」という具合に、時代を象徴する敬語が相当使われています。

戦前は軍部、戦後は進駐軍の検閲を受けるという大変な時代でしたが、魔法にかかった時代の自縛もとけ、天皇も昭和21年1月(1946)には人間宣言を出されて、新しい時代を迎えて、今日にいたっているわけです(会場では「玉音放送」を初めいろいろの録音が流されました)。

【記録】文・写真：広報部会・菅沼和男

昭和天皇の料理人

講師：谷部金次郎さん（大阪青山短大特別講師）

身土不二

「しんどふじ」または「みとふじ」と読みます。自分が生まれ育った場所で暮らし、そこで収穫されるものを食べていくことが、人間の健康にとって一番必要であるという意味です。

現在の日本では、この考えがまったく無くなってしまっていると言っているでしょう。今の日本の食料の生産能力はわずか40%です。普段たくさんの方に囲まれた生活を送っている私たちに生きるための食料がいかに大切か、今回の災害がいかに勉強になったのではないのでしょうか。長生きをなさっている人たちは、身土不二の生活をなさっている方がほとんどです。

昭和天皇のお食事

私は26年近く皇居の中で、昭和天皇と香淳皇后のお食事を担当させていただきました。17歳で宮内庁に奉職しましたが、天皇陛下はどんなお食事をなさっているのか、これから料理人を目指して一生懸命に頑張ろうと意欲に燃えていました。

皇居には日本中からあらゆる食材が届き、それを使ってどんな料理をつくれればいいかと悩む日々が続くと思っておりました。ところが、天皇陛下は私たちと同じごく普通のお食事をなさっていました。家庭の主婦と同じと思えるくらいシンプルなお食事の支度をされるのだというのが第一印象でした。

食材のこと

昭和天皇も香淳皇后もご長命でした。何と言っても規則正しい生活をなさったことが、健康に結びついていると思います。そして、健康の源は食にある

のです。

食材の野菜、鳥、豚などはすべて御料牧場から1日おきに届きます。以前は成田の三里塚にありましたが、今は宇都宮市の郊外、高根沢に移りました。

特においしいのは牛乳で市販のものとは水としか思えないほど濃度の高いものです。これでバターもクリームも作ります。



厨（ちゅう）房のシステムは、1係から4係まであります。1が和食、2が洋食、3和菓子、4パン・洋菓子で、人員は和洋が各6名、和菓子とパン・洋菓子各2名です。普段は両陛下お二方分なのでこの人数で作り、量的には5人前くらいを目安にします。お毒味という制度はありませんが、栄養学的な面で待医さんに同じ物を食べてもらっています。

うなぎ茶漬け

ご好物のうなぎは、京都の老舗から送られてくるめそと言って、小さなうなぎを丸ごと煮た物です。まっ黒ですが、辛くはありません。高松宮がご旅行のお土産に差し上げられ、これをお茶漬けにして差し上げましたら、陛下がとてもおいしいと喜ばれました。

陛下は好き嫌いを決しておっしゃいません。陛下ほど自分のことを犠牲

にして、人のために考えていらっしゃるお方はありません。私は皇居に入ってから3、4年目に、これ以上のお方にお会いすることはもう無いだろうと思い、陛下がもし亡くなられたら一代で辞めようと心に決めました。

園遊会での金縛り

私は26年間、お勤めしましたが、直接お話ししたことはありません。ただ一度の思い出は、園遊会でのことです。私は模擬店の天ぷらの係でした。陛下がご学友と歓談なさりながら、私と1メートルくらいの距離までいらっしゃいました。陛下は天ぷらがお好きで、穴子としそのご注文でした。私は承ってご注文の品を揚げ始めました。陛下が目の前でご学友とお話をされています。天ぷらが揚がってきた時に、私の手は金縛りにあったように動かなくなりました。揚がった天ぷらを小皿にとって差し上げなければならぬのに、はしを持つ手が動かさずはさめないのです。左手を右手に添えてやっとはさむことができました。

最後のお食事

晩年、ご病気になれましたが、そんな時まず頭に浮かんだのは、自分がつくったものをめしあがって具合が悪くなられたのではないかとということでした。すごく気になって待医さんのところへ聞きに行きました。「内臓的なものだから料理には関係がない」との返事にほっとしました。唯一陛下からのご注文で、ご闘病の末期、クズ湯のご所望がありました。このクズ湯を差し上げたのは私です。吐血なさった9月19日の夕食をつくったのも私です。これが陛下のめしあがった最後の食事でした。不思議なことに私はその献立をまったく覚えていないのです。他の日の献立はすべて覚えていますが、

【記録】文責：広報部会・岡橋園子
写真：同・斉藤美香子

第24回江戸東京博物館友の会セミナー (2004/11/11)

江戸／東京の狛犬あれこれ

講師：三宅稜威夫さん（日本参道狛犬研究会代表幹事）

狛犬に魅せられて

まずこの狛（こま）犬の写真を見てください。どこか見覚えはありませんか。実はこれは日光東照宮の狛犬です。日本で一番古いブロンズの狛犬です。ほとんどの皆さんは日光東照宮にはいらしていると思いますが「眠り猫」や「陽明門」は覚えていても、狛犬まではなかなか覚えていないのではないのでしょうか。

そんな狛犬を可愛そうではないかと思ひ、地域起こしの素材として取上げ、色々調べていくうちに狛犬にすっかり魅せられてしまったのです。

狛犬の歴史と地域の歴史

狛犬には木の狛犬もありますが、これは神殿の中にあつてなかなか見ることはできません。これを神殿狛犬というのに対し、参道にあつて私たちが普段目にする石でできた狛犬を参道狛犬といいます。材質はこのほかにブロンズ、陶、鉄などがありますが、石造が圧倒的に多いのです。

狛犬を調べていくと、これは一体誰がつくったのかという疑問がおき、そしてこれが寄進物であることが気になってきます。寄進物ですから誰かが許可をとってつくり、神社に奉納したものです。そしてこれをつくったのは石工（いしく）と呼ばれる職人さんであることが分かってきました。でもトラックもクレーンもない時代にあんな重い石をどうやって運んだのかと運搬の歴史にもつながっていきます。

どんな時にどんな理由で寄進したのか「寄進した人の歴史」、どんな人がどんなやり方でつくったのか「つくった人の歴史」、そして石をどうやっ

て運んだのか「運搬の歴史」と調べていくと、その地域の歴史がとても身近なものとなってきます。

狛犬の起源

狛犬というから犬と思われるかもしれませんが、これは犬ではありません。獅子、ライオンなのです。その起源はと言いますと今から5千年前の古代エジプトにさかのぼります。



そのころ、人間で一番偉いのが皇帝、動物で一番強いのがライオン、空を飛べる鳥で一番強いのがワシ、昆虫で一番強いのがサソリでしたが、その4つを合体したものが「シフィンクス」と言われています。人間は強いものにあこがれる、強いものに守られたいと思うようになりませんが、これを「獅子座の思想」といいます。

この思想がシルクロードを通してインド、中国へ伝わります。そして獅子が当時新興宗教として迫害を受けていた仏教の守護神となります。中国旧来の空想上の霊獣と同化した唐獅子が仏教の伝来と共に日本にも入ってきて狛犬も同じころに入ってくるのです。

獅子を見たことがなかった日本人が「あれはコマの犬ではないか」と言ったのが狛犬になったと言われています。コマというのは当時朝鮮の高句麗のほかにも外国という意味があった

のです。おそらく外国の犬ということだったと思います。

狛犬あれこれ

今日われわれが目にするのは江戸時代以降につくられた石の狛犬です。狛犬を見ていきますと、実にさまざまに興味がつきません。

例えば、江戸の町で一番古い狛犬は目黒不動にあります。とても渋い狛犬で女性に人気があります。古い狛犬は体に彫り字があるので分かります。大田区の六郷神社の狛犬も素晴らしく、正面もいいのですが後ろから見るのもいいものです。面白いのは雨の日でまた違った表情が見られます。

向島の牛嶋神社や三囲神社などにもとてもいい狛犬がいて、狛犬を学ぶにはここが一番いいところです。

また高輪神社は狛犬もいいのですが、ここには江戸時代の石工の名前300人が全部彫ってあつて貴重な資料です。浅草神社の狛犬は東京で最も大きな狛犬の一つです。

荒川区の素盞雄（すさのお）神社の狛犬はここまでできるかというくらい実に華麗な狛犬です。品川の荏原神社ではわれわれがこの狛犬はいい、いいと言ったものですから「世界一美しい狛犬」と張り紙がしてあります。

狛犬の造り手・石工

狛犬は一つの石からイメージして彫ります。「玄翁（げんのう、大型のかなづち）」と「のみ」だけで彫る大変な技術です。目とか口の中の歯とか実によく彫ってあります。1カ所の失敗も許されません。昭和30年ころまではすべて手彫りでした。

この石を彫る職人さんが石工で、古墳時代の石棺づくりがその始まりです。人類は石器時代という言葉があるのに、今ほど石造物に無関心な時代はないのではないのでしょうか。

これからも楽しく狛犬を追ってみたいと思います。

【記録】文、写真：広報部会・松原良

江戸東京博物館友の会 見学会(2004/11/13)

バスツアーで成田山と佐原を堪能

北総探訪—成田不動と小江戸佐原と伊能忠敬

好評のバスツアー特別見学会シリーズの第二弾が「北総探訪—成田不動と小江戸佐原と伊能忠敬」として11月13日(土)開催されました。

今回の見学会は9月の友の会セミナー「伊能家から見た伊能忠敬」に関連して、古い町並みが残る伊能忠敬のふるさと千葉県佐原市の探訪と、合わせて江戸の人びとの信仰を集めた成田不動を参詣するという企画で進められたもので、当日の参加者は65名となりました。

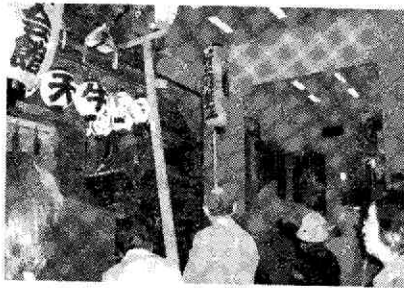
午前8時35分、2台のバスに分乗して江戸東京博物館を後に最初の目的地成田山へ出発しました。強風の中でのスタートでしたが、バスの中では終始なごやかな雰囲気の中で注意事項やコースの簡単な説明が行なわれました。

10時10分最初の目的地成田山に到着です。朝方の強風も嘘のように収まり、青空の下気持ちのいい成田詣でとなりました。「重文」の仁王門をくぐり新勝寺大本堂へ、本殿参詣のあと各自1時間余りを境内の三重塔、光明堂、釈迦堂、額堂の見学や成田山公園へと気ままな散策を楽しんでいただきました。11時15分山門前の「海老屋」で早めの昼食をとり、佐原に向けて出発しました。

佐原市内には予定より早目の12時30分に到着、水郷佐原山車会館駐車場に入りました。ここで佐原の「町並み案内ボランティアの会」吉田昌司さんの出迎えを受け、これからの見学場所である古い町並みや伊能忠敬の佐原を案内していただくことになりま

した。

まずは山車会館で佐原の大祭のビデオ鑑賞です。ここで7月の八坂神社の祇園祭り、10月の諏訪神社の秋祭りに引き回される勇壮豪華な山車の特徴や江戸まさり佐原の大祭の概要が紹介され、展示会場に移りました。1.2階吹き抜けの展示室には総檜材の見事な彫り物に飾られた本物の山車が2階天井一杯まで展示され、その大きさといい、装飾といい、迫力といい大変見事なものでした。

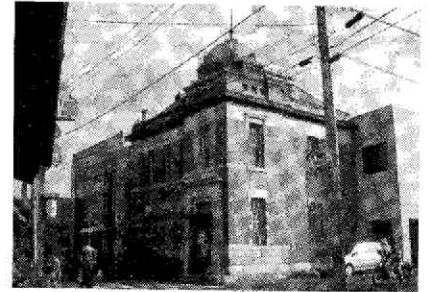


山車会館を出たところでもう一人の町並み案内ボランティアの宇野順子さんが到着、2班に分かれて江戸情緒が残る町並みを見学しながら伊能忠敬記念館に歩を進めていくことになりました。



文化庁の「重要伝統的建造物群保存地区」の指定を受けた佐原の古い町並みは忠敬橋で交差する小野川沿いと香取街道沿いにあり、木造や蔵造りの町家のほか、土蔵、洋風建築などの伝

統的建造物が数多く残っています。街道沿いで最初に目につくのは赤レンガを使った2階建ての洋館・三菱館です。正面屋根のドームは東京駅を彷彿(ほうふつ)させるもので、それもそのはず、東京駅を設計した辰野金吾によるものでした。街道沿いの町並みに昔の思いをよせ、忠敬橋を渡り伊能忠敬記念館に到着しました。



記念館では、忠敬が家業に励む傍ら好きな学問を続け、50歳から江戸に出て本格的に勉学にいそしみ、55歳から17年間に渡り全国測量を行なった忠敬の人間像や業績が展示されていました。特に圧巻は200年前の江戸時代中期に初めて実測によって作製した正確な日本地図(伊能図)です。この伊能図と人工衛星から見た日本列島の姿が交互に写し出され、伊能図の正確さに驚かされました。

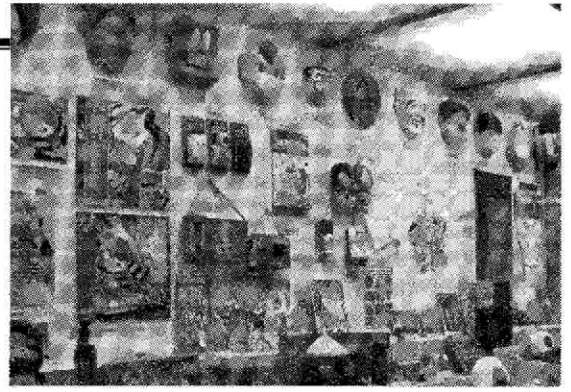
そして樋橋(通称ジャージャー橋)を渡り伊能忠敬の旧宅の見学を済ませ、今度は小野川沿いの町並み見学に移りました。ここの代表は天保3年建築の「正上」です。江戸時代より醤油(しょうゆ)の醸造をしていた店で当時の建築様式がそのまま残っていました。再び街道沿いに戻り正文堂書店、小堀屋本店(そば屋)、福新呉服店などの建造物を見ながら最後の訪問先の東薫酒造で本日の見学を締めくくりました。

お世話になったボランティアの方に別れを告げ、香取神宮を見送り帰路に着きました。バスの中で簡単なアンケートをお願いし、午後5時20分無事両国駅前に着き解散となりました。

【報告】文、写真：事業部会・安西洵

水木さんご本人からユニークなスピーチ

「大(Oh!)水木しげる」展



「大(Oh!)水木しげる展」(会期 11月6日～明年1月10日)の特別内覧会が一般公開に先立つ11月5日(金)に開催され、水木しげるさんご本人も出席されました。



水木しげるといえば「ゲゲゲの鬼太郎」をはじめ妖怪を扱ったコミカルな漫画が人気です。冒頭のスピーチでは、水木ワールドを生み出す礎となった彼のユニークな人生観の一端を聞くことができました。太平洋戦争での体験

談から普段の生活などを、ユーモアたっぷりに話す様子が会場の笑いをさそっていました。

展示会場に入ると、まずタキシードを身にまとった等身大の水木しげる



像がなんともリアルな表情で迎えてくれます。数多くの作品に加え、雑誌の付録やおもちゃの展示も充実していて、「懐かしい!」という声があちらこちらで聞こえました。

半世紀以上におよぶ彼の画業生活

を追った展示には、それぞれの時代背景を反映した作品も数多く、移り行く東京の姿、強いては昭和、平成史をも垣間見ることができました。

また原画や美術専門学校時代の絵画など、普段は見ることのできないめずらしい作品も人びとの関心を集めていました。

今回の展示のために新たに描かれた10メートルにもおよぶ「人生絵巻」や、世界各地の妖怪コレクションなど、大人から子供まで楽しめる内容で、水木しげるの魅力がたっぷりの世界でした。

【取材】文・写真：広報部会・齊藤美香子



江戸博クリップ

本年度の10月から12月にかけて、都市歴史研究室が主催する秋期“えどはくカルチャー”「講座古文書」を開講しました。初心者から経験者まで、より深くわかりやすく学んでいただけるよう、入門・基礎・応用の3コース(各3回)をご用意したところ、おかげさまで全コース満員で大盛況のうちに終了しました。

わたしの受け持ちは、講座古文書のうち入門コースです。江戸時代の古文書は、まるでミミズがのたくっている

ような字体、くずし字で書かれています。ですから初日を迎え、「たった3回の講座だけで、あのグニャグニャ文字を身につけることができるのでは

くずし字を学ぶ

～えどはくカルチャー講座
古文書の開講に寄せて～

都市歴史研究室講師 田原 昇

うか?」という質問があがるのも無理はありません。しかしながら、「割り箸の袋の「御手茂登」という文字や、「多留ま」という居酒屋の看板の文字など、現在でもみなさんが目にするくずし字は多々ありますよ。そう説明し

ながら、古文書の読み解きに入ったところ、くずし字に親近感をもって取り組んでもらえました。

わたし自身、初めてくずし字に接したころを思い起こして、新鮮な気持ちで3回の講義を終えることができました。

次回は1月から3月にかけて、冬期“えどはくカルチャー”「講座・古文書」を開講予定です。みなさんのくずし字を学ぶ清々しい姿が、今から目に浮かぶようです。

◆このコラムは江戸東京博物館の学芸員や講師などの館職員の方に執筆をお願いしています。

■お詫びと訂正 前22号4頁の「第20回友の会セミナー」の見出し中、講師のお名前・伊能洋子さんは伊能陽子さんの誤りでした。お詫びして、訂正いたします。

えど友フラガ

東京の酒札賛

稲垣 武志

東京の地酒について、一度は耳にしたことがおありだろうが、都内にはなんと13もの蔵元が存在することについては、案外知られていないのではないかな。

それぞれの酒造所は見学も可能であり、そこには江戸・明治からの地域文化が、脈々と息づいている気がして、都民として頼もしくも感じられ、“東京銘柄”に愛着をおぼえる。一口に東京の酒といっても、島嶼（しょう）地方で生産される焼酎（これも実にうまいという話）もあるので、ここは清酒について述べたい。

良い酒を作る条件は酒米と仕込み水と麴（こうじ）が良質なことで、とりわけ水が良いことは必須だ。かといって東京の水質が、さほど良いというイメージはあまりない。そんな東京で酒造に適したよい水が得られるとは意外だが、その秘密は深井戸にありそうだ。東京の蔵元のほとんどは、秩父水系の水を使用している。一見すると東京の西部に集中しているので、多摩川系と思われるかもしれないが、それよりもさらに深い地下130～150mもの地層を流れる水は、量的にも質的にも安定しており、酒づくりには欠かせない貴重な存在だ。

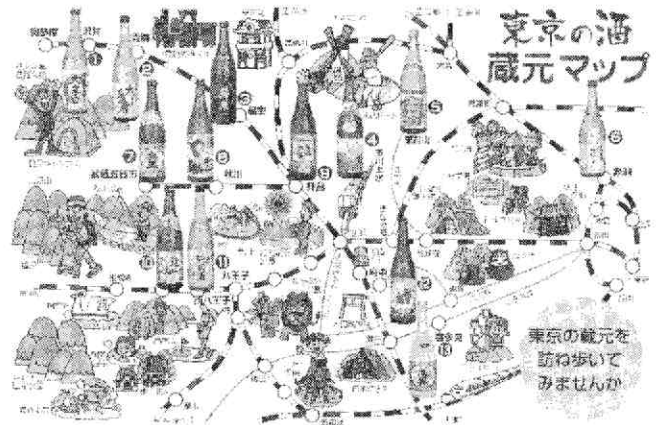
さて東京の酒の特徴は、都会風のスッキリとした味わ

いとのだごしのキレ、料理との相性を意識したものが多
い。料理を楽しんだ舌の余韻を洗いながら、いったん口
中をニュートラルにし、かつ次の料理を引きださせるべ
く、酒自身はツッパらない淡麗で上品なタイプというこ
とだ。かといって庶民向きではないのかというと、さに
あらず。酒飲みの心をとらえたコシのすわった剛直なも
のから、女性にも愛される穏やかで柔和なものまで味わ
いも多様で豊富、なんと言ってもうまいのがうれしい。

そんな東京の酒だが、このところ清酒全体の低落傾向
のご多分にもれず、厳しい状況が続いている。さらに市
場は他県の有名“地酒”が主流を占め、肝心の東京勢は
劣勢だとか。ある試算によれば東京地酒は、都民消費量
のわずか3%程度のシェアしかないそうだ。裏返せばま
だまだ拡大の可能性があるということ、ぜひ頑張ってもら
いたいものだ。決して偏狭な郷土愛からではなく、おい
しい水と酒にエールを送りたい。

東京の酒の詳しい情報はホームページをご覧ください。

(www.tokyosake.or.jp)



(東京都酒造組合パンフレット「東京の酒」から)



えど友㊤㊦㊧㊨ だより

会員の自主的サークルとしての「えど友サークル」の活動も徐々に軌道に乗ってきました。最近の活動状況をご紹介します。

江戸の理解を深める会

◆10月22日（金）に第1回会合を開催。出席者の自己紹介とテーマの設定についてフリートーキングを行った。参加7名。

◆11月26日（金）に第2回会合を開催。前回に引き続きテーマの話し合いを行った。参加6名。

江戸三十六見付を巡る会

◆10月29日（金）に第1回会合を開催。活動方針などを話し合い取りまとめた。参加11名。

◆11月23日（火・祝）に第2回・最初の見学会として

浅草見付、筋違見付などを巡った。参加18名。この詳細については野坂絃子さんのレポートを次号掲載の予定。

落語・講談を楽しむ会

◆11月28日（日）に第1回会合を開催。落語「粗忽の釘」のビデオ鑑賞などを行った。参加7名。

●各サークルとも引き続きメンバーを募集しています。参加ご希望の方は、はがきに①サークル名、②会員番号、③氏名、④住所、⑤電話番号、⑥Eメールアドレスをご記入の上、友の会事務局へお申込みください。

申込先 130-0015 東京都墨田区横綱 1-4-1

江戸東京博物館友の会事務局

Tel. 03-3626-9910

●新規サークルを設立される方も引き続き募集中です。ご希望の方は事務局(上記)へ関係資料をご請求ください。

うふ漫画同人の原えつおさん

前号から漫画が掲載されていて、誌面がとてもなごやかになったとお感じの方も多いのではないのでしょうか。遅ればせながら、作者の原えつおさんをご紹介します。

友の会会員で、月刊「浅草」というタウン誌に毎月「ボボ君の浅草さんぽ」という漫画を連載されています。以下原さんからお寄せいただいた一文でそのプロフィールをご紹介します（原さんの雰囲気損なわない範囲で若干アレンジさせていただきました）。

略歴等のせて頂ける旨ですが、出来ましたら現在の肩書き？（気に入っているの）をのして頂ければと思います。それは、次の三つです。それぞれのお仲間に入れて頂けて私は幸運だと思っています。

★うふ漫画同人

うふ漫画同人は日本で2番目に出来た漫画の学校YMC Aマンガスクールの残党で、もう38年の付き合いです。

★浅草かっぱ村助役

浅草かっぱ村は、平成元年に出来ました地元浅草かっぱ橋商店街を中心とした仲間です。全国組織のかっぱ連邦共和国の支村でもあります。

★有遊会会員

有遊会は笑文芸の会で、残念ながら本年亡くなった小島貞二先生を中心とした集団です。

会 議 ・ 会 合 日 誌

2004/10/1~2004/11/30

◆役員会

11月14日(木) 18時から開催。
各部会報告のほか、「役員等候補者推薦委員会」の委員が各部会の推薦により次の9氏に決まったことが報告された。

<委員名>清水良男、伴野睦雄、谷岡文彦(以上事業部会)、佐藤幸彦、岡橋園子、大野晴美(以上広報部会) 遠藤寛、安西洵、後藤幸子(以上総務部会)

このほか、平成16年度予算の9月までの上期の実績と下期の見通しについて報告があり、来年度の方向

などを話し合った。出席10名。

11月11日(木) 18時から開催。

各部会報告のほか、来年度のセミナー等のあり方、法人格を持たない友の会の問題点などを話し合った。出席10名。

◆役員等候補者推薦委員会

10月25日(土) 16時から開催。

委員長に佐藤幸彦氏を選出、今後の日程などを打合わせた。出席8名。

◆事業部会

10月7日(木) 18時から開催。9月セミナーの報告のほか、10月~11月事業の確認、担当の決定、12月以降の計画についての話し合いなどを行った。出席19名。

11月4日(木) 18時から開催。10月セミナーの報告、3月までの事業

の確認、担当の決定のほか、予算面における来年度の検討課題などを話し合った。出席16名。

◆広報部会

10月20日(水) 16時から開催。

「えど友」第22号のまとめ、ホームページの運用ルールの検討、「えど友」第23号の特集、新企画の話し合いなどを行った。出席9名。

11月24日(水) 16時から開催。「えど友」第23号の進行状況の確認、「名店めぐり」に代わる新企画「江戸博界限」の記事構成などの検討を行った。出席7名。

◆総務部会

10月28日(木) 13時から「えど友22号」などの発送作業を行った。出席8名。

源内さんの江戸博さんぽ 其の2



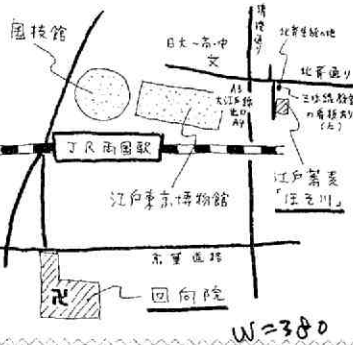
(今回の漫画について作者の弁)

今回は北斎先生です。本物は多分違うと思うのですが、江戸博の先生は徳川夢声さんのように見えます。もっとも今回の私のは何故かYMC Aの漫画スクールの主任教授の秋玲二先生のようになっていました。

ちょっと寄ってみませんか

江戸博界限①

回向院と江戸蕎麦・ほそ川



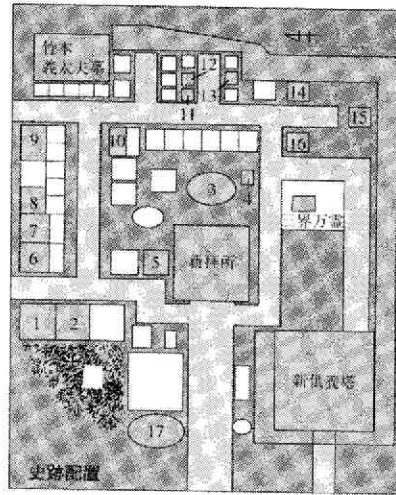
回向院

俗に振袖火事ともいわれる明暦3年(1657)正月の大火は、江戸市中の3分の2を焼き尽くし、10万8000人もの人々が亡くなったといわれます。家光の弟、保科正之が家康供養のため増上寺に行く途上、路上に多くの死体が転がったままになっているのを見て家綱に提言。家綱は無縁の人々の亡がらを手厚く葬るように、両国の隅田川東岸に「万人塚」を築かせ、お堂を建て増上寺の門主に法要を行わせましたそれが回向院の始まりです。



回向院は浄土宗の寺ですが、江戸時代の正式の名称は「諸宗山無縁寺回向院」といいます。葬られた無縁の人々の宗旨がさまざまなのを配慮し、1宗1派にとらわれない供養を行う意味がこめられています。こうして回向院には、焼死者や水死者、獄死者や刑死者、自殺者、行き倒れの人びとなどを葬るならわしが生まれました。馬頭塚をはじめ、猫塚、唐犬碑などもあり、動物類も葬られるようになります。

また、この寺は諸国の秘仏を迎えて行う出開帳や、境内で勧進相撲が行われていたことでも有名です。天保4年



【本堂東側の史跡配置】

- 1 明暦大火横死者等供養塔(1675 建立) 2 海上溺死者群供養塔(1856 再建) 3 ねずみ小僧の墓(1876 再建) 4 猫塚(1816 建立)
- 5 二世中村勘三郎の墓 歌舞伎役者。6 安政大地震横死者供養塔(1855 建立) 7 安政大地震横死者石塔(1856 建立) 8 浅間山噴火横死者石塔(1788 建立) 9 関東大震災横死者の墓(1925 建立) 10 井田長秀の墓 亀の研究者。11 山東(岩瀬)京伝の墓 戯作者。
- 12 山東(岩瀬)京山の墓 京伝の弟。13 橋(加藤)千蔭の墓 国学者、歌人。14 地藏半跏像(1757 建立) 15 水子塚(1793 建立) 16 六地藏供養塔(1857 建立) 17 塩地藏 破損ひどく年代不明。

- 初代竹本義大夫の墓(1918再建) 大阪にも墓があり分骨。隣の「釈道喜・竹本筑後大掾、正徳4年」とあるのが最初の墓石。
- 三界万壺塔(1665 建立) 回向院で最も古い石塔。登録有形民俗文化財。

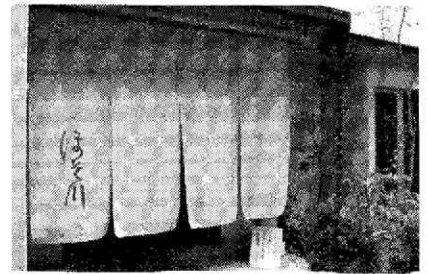
(1833)からは相撲が春秋2場所制となって回向院境内が定場所となり、両国国技館ができる明治42(1909)年まで存続しました。

寺は度重なる火災で当時の姿はまったくなく、敷地も半分以下になっていますが、無縁の墓碑や供養塔、著名人の墓碑など本堂の東側にまとめられ、文化財の宝庫になっています。なお現在、本尊として本堂に安置されている阿弥陀如来坐像は宝永2年(1705)の作で東京都指定有形文化財。法要のないときは、10時~4時半まで拝観できます。

江戸博から約8分。墨田区両国2-8-10、電話3634-7776

江戸蕎麦・ほそ川

入り口の長いのれんをくぐると、目に飛び込んできたのは、大きな瓶に生けられた紅葉。テーブルが置かれ、喫煙室になっていました。引き戸を開けて入った店内は、ゆったりと落ち着いた空間。声高に話す人もいません。”小学生以下お断り”の店です。



「江戸蕎麦(そば)」とあるが、特に江戸そばというものがあるわけではなく、「野暮ったくない」というほどの意味らしい。なるほどインテリアも器も趣味がいい。

そばは、客の顔を見てからゆでるのはもちろん、そば粉も、その日に使う分だけ自家製粉。よい原料を求めて足で歩いて探し、じかに農家から買い付けます。そば粉100%、つなぎはまったく使わないので、そばはコシが強く硬い。

せいろ1枚では量が少し不足と思えたが、大盛りはない。そばは見ているうちに伸びるものだし、2枚目には必ず産地の異なるそばを出し、味、香りの違いを楽しんでもらいたいからとのこと。締めくくりのそば湯は、どろりとして濃い。

せいろ(もり)と田舎そばの違いを聞くと、せいろは石臼でひいたものをふるいにかけて甘皮を除くが、田舎そばはこの甘皮をもう一度ひきこんで混ぜるので、色も香りも濃くなるそうです。

せいろ900円、田舎そば1000円、そばがき1200円など。月曜定休、営業時間12.00~3.00、5.00~9.00。

江戸博から約2分。墨田区亀沢1-6-5、電話3626-1125

【取材】文：広報部会・大野晴美
写真：岡・松原良

事業部会だより

★★★講座のお申込方法★★★

◆普通はがきに、①講座名・開催日、②会員番号、③氏名(同伴者連記)、④〒住所、⑤電話番号を明記して、右記の「友の会事務局」へ。 ◆締め切り:各講座の案内をご覧ください(必着)。	◆お申込みは、各講座ごとに会員1人1通。 ◆友の会へのご意見・ご要望もご記入ください。 ◆申込み先:〒130-0015 東京都墨田区横綱1-4-1 江戸東京博物館友の会事務局
---	--

*お申込みいただきますと、折り返し「受講票」をお送りします。当日ご持参のうえ、受付でご登録ください。
なお「受講票」は逐次お送りするのではなく、申込締切の数日後に一斉にお送りします。それまでお待ちください。
また、「受講票」未着のお問合せや参加予定変更の連絡などは、なるべく水曜日か金曜日にお問い合わせいたします。
*「受講票」がないと受講できません。必ず事前にお申込みをしてからご参加ください。

友の会セミナー

第27回「江戸天下祭」

講師 作美陽一さん(東京都職員)

- ・開催日:1月23日(日)14:00~15:30
- ・申込締切:1月13日(木)必着
- ・会場:江戸東京博物館・1階会議室
- ・定員:100名 同伴者可(ハガキに氏名連記)
- ・参加費:会員200円、同伴者500円(当日払い)
- ◆現在、東京の祭りは神輿が主役です。でも、100年ほど前までは山車が主役でした。300年にわたって、江戸東京の祭りの華だった山車の変遷を、周辺地域の山車にも触れながら明らかにしていただきます。

講師略歴:さくみ・よういち

1970年埼玉生まれ。東洋大学文学部史学科卒業。東京都職員。著書に「大江戸の天下祭り」(1996年・河出書房)がある。

[企画担当責任者] 黒瀬雅博(事業部会)

特別観覧会

企画展「フランスの至宝—エミール・ガレ」展

- ・開催日:1月26日(水)18:00(受付開始17:30)
- ・申込締切:1月14日(木)必着
- ・会場:江戸東京博物館・1階学習室/企画展示室
- ・定員:100名 同伴者可(ハガキに氏名連記)
- ・参加費:会員、同伴者とも500円(当日払い)
- ◆2004年9月23日は、アール・ヌーヴォー芸術を代表するガラス作家エミール・ガレが没して100年目の命日にあたります。この企画展は、ガレが制作したガラス、陶器、家具などの作品のほか、ガレに影響を与えた歌川広重や高島北海の資料なども紹介する、ガレ研究の集大成です。

[友の会側責任者] 岩松精(事業部会)

友の会セミナー

第28回「東海道五十三次”山あり谷あり”」

講師 川口順啓さん(鉄道文学会副会長)

- ・開催日:2月5日(土)14:00~15:30
- ・申込締切:1月25日(火)必着
- ・会場:江戸東京博物館・1階会議室
- ・定員:100名 同伴者可(ハガキに氏名連記)
- ・参加費:会員200円、同伴者500円(当日払い)
- ◆古代から変遷を重ねてきた東海道は、1601年に徳川家康の命により宿駅制度が制定され、交通の大動脈として重要な役割を担いつづけました。今回のセミナーでは、徳川幕府の交通行政の仕組みや東海道五十三次の種々相について多面的にとらえてお話いただきます。

講師略歴:かわぐち・じゅんけい

昭和32年運輸省に入省。昭和60年日本国有鉄道・常務理事として国鉄改革にたずさわる。平成12年より(財)JR東海生涯学習財団・常務理事。鉄道文学会副会長もつとめている。著書に「日本の旅・千五百年」など。

[企画担当責任者] 藤永昭彦(事業部会)

友の会セミナー

第29回「古文書で読み解く忠臣蔵 その2」

講師 佐藤孔亮さん(古典芸能ライター)

- ・開催日:3月5日(土)14:00~15:30
- ・申込締切:2月22日(火)必着
- ・会場:江戸東京博物館・1階会議室
- ・定員:100名 同伴者可(ハガキに氏名連記)
- ・参加費:会員200円、同伴者500円(当日払い)
- ◆赤穂事件に関して残されているたくさんの記録の中から、史実としての要点を示す古文書を読み解きながら「討ち入り」の真相に迫っていただいき好評だった昨

昨年のセミナーの続編として、今年は「刃傷事件」についてお話いただきます。

講師略歴：さとう・こうすけ

1956年、大分県生まれ。立教大学文学部史学科卒。出版社勤務を経て独立。歌舞伎・落語・相撲などに精通、川柳・都々逸作家としても活躍中。著書に「忠臣蔵事件の真相」(平凡社)など。[企画担当責任者] 松原良(事業部会)

見学会

「常設展を見る～火消年代記」

- ・開催日：3月6日(日)
- ・申込締切：2月22日(火) 必着
- ・会場：江戸東京博物館・5-6階常設展示室
- ・定員：40名 同伴者可(ハガキに氏名連記)
- ・参加費：会員無料、同伴者は常設展観覧料が必要。
- ◆江戸東京史跡巡り写真を紙芝居風に使いながら、展示紹介をいたします。新たに加えた写真により前回と見所を組み替えて解説します。スポット解説のテーマは、火消し年代記として、「火事と喧嘩は江戸の花」と言われた、エピソードを江戸全史にわたり、紹介・解説します。 [企画担当責任者] 黒瀬雅博(事業部会)

見学会

「江戸四宿を歩く—千住」

- ・開催日：3月12日(土) 13:15～(集合13:00)
 - ・申込締切：3月1日(火)
 - ・定員：80名、同伴者可(ハガキに氏名明記)
 - ・参加費：会員・同伴者とも500円(当日払い)
 - ・集合：JR北千住駅
 - ◆品川宿に続き今回は千住を歩きます。千住宿が日光道中の初宿として建設されたのは寛永2年(1625年)ですが、千住は古くから北関東、東北方面への玄関口でした。南北に長い千住宿、今回は川向うの北千住地区を中心に宿場跡、寺社や数々の蔵跡を歩きます。
- [企画担当責任者] 玉木達二(事業部会)

古文書講座◇第3期の日程

- *入門編 第1回 1月12日(水)
- 第2回 2月9日(水)
- 第3回 3月9日(水)
- *初級編(水曜コース)
- 第1回 1月26日(水)
- 第2回 2月23日(水)
- 第3回 3月23日(水)
- *初級編(土曜コース)
- 第1回 1月15日(土)
- 第2回 2月19日(土)
- 第3回 3月19日(土)

- ・いずれも開催時間は14:00～16:00、会場は江戸博1階会議室。講師は野尻泰弘さん(学習院大学大学院史学専攻)、小宮山敏和さん(同)、小松賢司さん(同)が交互に担当。
- ・参加費：全3回1000円(各講座とも初回払い)
- ・申込は締切済。 [企画担当責任者] 山口千恵子(事業部会)

会員優待のお知らせ

●企画展「大(Oh!)水木しげる」展

会期 2005年1月10日(月・祝)まで。
年末年始(12/27～1/4)休館、1月10日は開館
図録 定価：2000円(今回の図録は会員割引なし)
会員：一般550円、65歳以上270円、大専門生440円
同伴者：一般880円、65歳以上440円、大専門生700円

●企画展「フランスの至宝—エミール・ガレ展」

会期 2005年1月22日(土)～年4月3日(日)
休館日：月曜日(月曜が祝日の場合は開館・翌日休館)
図録 定価、会員割引とも未定
会員：一般600円、65歳以上300円、大専門生480円
同伴者：一般960円、65歳以上480円、大専門生760円
※本展の会期中、箱根ポーラ美術館の入館料が割引になります。[ポーラ美術館] TEL0460-4-2111。開館3周年記念展「ポーラ美術館の印象派 モネ、ルノアール、セザンヌと仲間たち」開催中。
割引：大人1800円→1500円、高校生1300円→1100円
同伴者、会員本人を含め5人まで割引(友の会会員証提示)
交通アクセス、その他詳細は上記電話へ問合せるかホームページをごらんください。 <http://www.polamuseum.or.jp>

●第17回 歌舞伎フォーラム公演

会期 2005年2月22日(火)～26日(土)
会場 江戸東京博物館1階ホール
割引 前売S席4000円→3600円、A席3500円→3150円
当日S席4500円→4050円、A席4000円→3600円
お問合わせは 歌舞伎公演事務局 TEL.03-3544-4911

江戸東京博物館友の会
会報〈えど友〉第23号
2005(平成17)年1月1日発行
隔月(奇数月)刊。次号は3月1日発行予定

編集・制作/友の会広報部会
東京都墨田区横綱1-4-1
〒130-0015 電話03-3626-9910
発行人：大松駿一(副会長) 編集主幹：松原良
編集人：菅沼和男、岡橋園子、佐藤幸彦、大野晴美
小柳英二郎、斎藤美香子、稲垣武志、岡田守弘